



第68回

寛政年間（1789～1800）に流行した着物の模様、帯の模様と幅、簷、笄、髪型などは次の天保年間（1830～43）の時には時代遅れのモードでした。天保年間はこの時代の最新流行のモードがデザイン化され商品化され、浮世絵という情報紙に載ることにより江戸の娘たちに今年の春の最新流行はこのモードが流行る、とPRするとその商品は売れました。「美人画」を購入するのは男性よりも女性たちでした。「美人画」には10代、20代、30代、40代とそれぞれの年代に応じてデザイン化された小袖や付属の小物が描かれ、また母と娘、娘同士など様々なパターンの組み合わせや背景も隅田堤、上野寛永寺、飛鳥山などの名所地が撰ばれ、この場所にはこの小袖が似合う等様々な戦略を太物問屋と版元と絵師が考案し作品を制作していきました。そのため今日「美人画」の作品数は「役者絵」と同様に多く残っています。

今回紹介する作品は、「両国夕すずみ」（歌川広重画 大判三枚続）江戸時代の納涼期間は5月28日から8月28日までの3ヶ月間で、この期間は夜遅くまで遊ぶことが出来ました。作品が描かれた両国西詰は大小様々な小屋が建ち曲芸や寄席、芝居などが行われ一大歓楽街となっていました。描かれた3人の女性の着ている衣装、帯、髪型、小物、履き物にいたるまで三者三様に描かれています。女性たちは20歳位で最もモードに関心を寄せる年齢でもあります。今年の納涼はこのような衣装が流行りますよとこの錦絵は訴えているのです。

春季特別展

【浮世絵名品展－川崎・砂子の里資料館開館10周年記念－】



「両国夕すずみ」

この度は、開館10周年を迎える川崎・砂子の里資料館のご厚意により、浮世絵の初期から末期までの肉筆画、版画の名品、優品を紹介します。江戸時代の鎖国で育んだ独自の文化は西欧に多大な影響を与えました。その土壌となった浮世絵の世界を概観するまたとない機会です。浮世絵から見る江戸の文化や西欧に影響を与えた文化をご堪能ください。

馬頭広重美術館長 市川信也

【会 期】前期:4月22日(金)～5月22日(日)
後期:5月27日(金)～6月26日(日)

【開館時間】午前9時30分～午後5時まで
(但し、入館は午後4時30分まで)

【休 館 日】月曜日、祝日の翌日

【講 演 会】5月28日(土) 午後1時30分
演題「浮世絵の魅力」当館学芸員

【入館料】 大人 700円 (630円)
高・大学生 400円 (360円)

※ () は20名以上の団体料金。

※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

ミニギャラリー 作品募集！

あなたの作品を出展してみませんか？

写真、絵画、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問い合わせ：
企画財政課広報広聴係

☎0287-92-1114

ばとうの観光写真コンテスト受賞作品



「竹林相景」
馬頭広重美術館 阿部光雄さん（那須町）

「朝光」
鷺子山上神社
杉本 静さん（片平）

